

水槽から始まる錦鯉ライフ 泳ぐ宝石を 水槽で磨いてみませんか



代表理事の星智也さんと塚田由里さん

「錦鯉は池で飼うもの」——まだまだそんなイメージを持つ人が多い中、錦鯉をより身近に、より手軽に水槽で楽しんでもらおうと、2022年10月11日に設立された「(一社) 錦鯉水槽飼育普及協会」。

名前の通り、錦鯉の水槽飼育に特化したユニークな協会といえるが、その活動が少しずつ広がるにつれて注目度も高まっている。

今回、代表理事を務める星智也さんと、事務局の塚田由里さんに協会設立の経緯や取り組みについて聞いた。

3本柱の取り組みで 水槽飼育と錦鯉を身近なものに

身近な観賞魚として錦鯉の魅力を発信し、気軽に水槽で楽しんでもらうことを目的に設立され、錦鯉に携わる次世代の人材発掘と育成に力を入れている「(一社) 錦鯉水槽飼育普及協会」。本協会の代表理事を務める星智也さんは、新潟県内を中心としたアクアリウム水槽のレンタル・メンテナンス事業を行う、(株)アカリゾートの代表も務める。

同社はこれまで企業や飲食店、医療施設などに1000以上の水槽を設置した実績をもち、県内ナンバワンを誇っている。そんな経験と技術を兼ね備えた(株)アカリゾートは、本協会のメインスポンサーとして提携しており、普及活動の実務を担っている。

レンタルアクアリウム水槽の多くは熱帯魚・海水魚・水草であるが、錦鯉発祥の地として錦鯉水槽の提供を始めたのは約10年前。

「新潟に住んでいるものの、それまで錦鯉に対してあまり詳しくなかったので、錦鯉を水槽に入れて熱



昨年11月に行われた「出前講座」



昨年9月に新潟市立大形小学校に錦鯉水槽を設置

帯魚や水草と同じような感じで提供したらどうかというのは、社内から上がってきた声でした」と、当時を振り返る星さん。

予想以上にお客さんの反応が良かったという錦鯉水槽は、現在では30か所以上に設置。取り組みを進めていく中で養鯉業者との関わりが増えたことで、錦鯉の歴史や品種の豊富さ、海外からの注目度の高さなどを実感したという。

「水槽に関わっている自分自身がそういったことを新たに知ったときに、せっかくなにかういった仕事をしているのだから、我々の仕事を通じて広げていきたい」との思いをいただき、本協会の立ち上げに至った。

設立から約2年で活動に賛同する協力団体やスポンサー、賛助会員が20社近くまで増え、地元企業と連携を取りながら、将来的にはメンテナンス事業を行う同業他社との連携も図っていくという。

本協会では錦鯉を新潟だけではなく、日本の誇れる文化として定着させていくため大きく3つの活動を行っており、その主軸となる取り組みが昨年9月からスタートした。

協会の名前にも入っている「普及」という言葉を最も表す活動が、小学校への錦鯉水槽の展示である。錦鯉を身近な存在として愛着を持ってもらうため、昨年9月から新潟市立大形小学校、今年1月から新潟市立下山小学校に水槽を設置。4ヶ月という短いモニタリング期間のなかでも、子どもたちからの反応が良かったと話すのは、事務局を担当する塚田由里さん。

「水槽を小学校に展示することで、子どもたちはすごく喜んでくれましたし、種類の違う錦鯉を入れたことで模様の違いなど、一匹一匹をしっかりと見てくれているのをとても感じました。水槽に子どもたちの手垢がびっしりについていたので、それだけ間近で見てくれていたんだと思います」

さらに、子どもたち以外にも学校に出入りする地域の方から好評を得ていたそうで、錦鯉水槽を通じた地元住民との交流にもつながっているという。

一昔前であれば教室に小さな水槽が置かれていたり、玄関のエントランスで大きな水槽が来校者を迎え

る景色が見られたものだが、現在は教職員の勤務負担軽減に向けた取り組みによって、見かける機会が減ってしまった。水槽のメンテナンスは、経験者でさえ億劫に感じてしまうことがあるのだから、仕方がないのかもしれない。

そんな課題がある中で小学校への水槽設置はハードルが高いと思われるが、メインスポンサーとなっている(株)アクアリゾートの存在が強みとして機能している。

本協会の目的のひとつである「気軽に水槽で錦鯉を楽しんでもらう」。これを体現するために、水槽の設置から日々のメンテナンス、撤去に至るまですべて同社が担っている。そのため、どうしても人手の都合で複数の小学校に並行して水槽を設置することはできないが、1校ずつ手厚いサポートで観賞性の高い錦鯉水槽を維持、提供している。

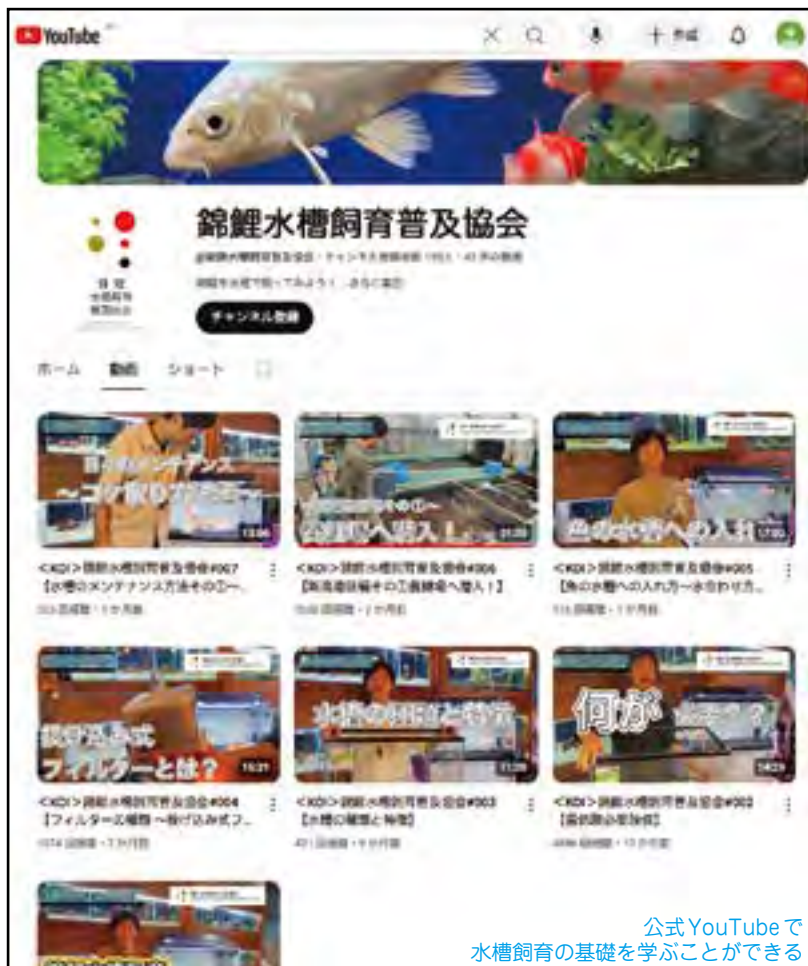
さらに水槽設置とセットで行われるのが「出前講座」である。代表の星さんやメンテナンスを行うスタッフが直接子どもたちに授業を行うもので、昨年11月に大形小学校で初開催。オリジナル動画を通して錦鯉の

歴史や文化、誕生についてわかりやすく解説し、本協会の活動内容や目的などを紹介。実際にメンテナンスを行う際に使用する道具を用いた実演も実施された。

初の出前講座に「錦鯉発祥の地である新潟県とはいえ、やはり子どもたちも先生も馴染みがないため、『なるほど』という反応が多かったのが非常に印象的で、難しい内容ながらも一生懸命聞いてくれました」と星さん。

最近では他県から水槽設置をしてほしいという声も多いそうだが、設置後のメンテナンスをどのように継続していくかが課題となる中、その受け皿を増やすために実施されている二つ目の取り組みが、オンラインスクールである。

専門学校で講師を務め、アクアリウム展示の監修も行う菅野政隆さんがレッスンを講師を担当しているため、プロのノウハウと技術を直接学ぶことができる。もちろん初心者向



けのパーソナルレッスンもあるのですが、未経験者でも安心して受講することができるとのこと。

「オンラインスクールで、まずは錦鯉を水槽で飼育することに興味を持つてもらい、そこから段々ステップアップしていけば、水槽飼育のベテランとして様々な場所でメンテナンスの対応をすることができるようになります」

水槽飼育のノウハウを共有し、県外で活動の場を広げてくれる人を増やしていくことが重要と語る。

一方で、オンラインスクールは少



錦鯉水槽飼育ファンクラブで配信されるニュースレター

しハードルが高いという方は、本協会のYouTubeでそのノウハウの一端に気軽に触れることができるので、ぜひ一度見てほしい。今後は錦鯉業界に一步踏み込み、なかなか見ることのできない、知る機会の少ない内容をピックアップして発信していくという。

さらに、無料で登録できる「錦鯉水槽飼育ファンクラブ」では、錦鯉に関する最新情報を定期的にニュースレターで配信しているので、ぜひ登録してみたいかがだろうか。



さくらこい

SAKURAKOI®

S

A

K

U

R

A

ction

社会課題の解決へ

reasonable

手軽に楽しく

universal

啓蒙と伝承

oi

新潟県産錦鯉

aquarium

水槽飼育

sustainable

伝統産業の継続

**選別漏れ活用で社会課題解決へ
県外での錦鯉水槽拡大も視野に**

本協会の三つ目の取り組みが、錦鯉の生産過程で選別によって廃棄されてしまう鯉を活用した「SAKURAKOI(さくらこい)」だ。

「SAKURAKOI」には伝統産業の継続や、啓蒙と伝承といった6つの言葉の意味が込められており、その頭文字を取って「SAKURAKOI(さくらこい)」と呼んでいる。本協会が推奨するプ

ランドとして新たな価値を見出すことで、社会課題の解決や新しい錦鯉のスタイルの提供を目指している。

昨年からの取り組み始めた活動のため、まだ本格的にスタートはしていないものの、将来にわたって持続可能な錦鯉生産を行っていく上で重要な取り組みといえる。

「SAKURAKOI(さくらこい)」は水槽で飼いやすい12cm～15cmを目安に、魚病リスクを低減させるため耐性キャリアをもたせる処置をしっかりと行う。そして、最も重要となる観賞性の面では、模様や鮮やかさなど水槽に適した錦鯉をピックアップし、多彩な品種をバランス良く揃えることにこだわっていくといい、現在、安定的に提供できるように、効率的な管理方法を模索中だ。

「いかに調子を崩さず、水槽という独自の環境に適応させていくかが重要です。そういった飼育技術を確立することで、さらに水槽飼育の幅を広げていけるのではないかと考えています」

錦鯉発祥の地・新潟で錦鯉を普及させるための活動に力を入れている本協会だが、星さんは今後の活動に

ついでこう語る。

「現在2校目となる小学校への錦鯉水槽設置が完了し、出前講座を行っていく予定です。今後も教育委員会と相談しながら設置する小学校を募り、新潟県内のすべての公立小学校に水槽を設置することを大きな目標としています。」

そして、オンラインスクールを通じて錦鯉水槽を扱える人を県外に増やしていくことで、新潟以外の小学校でも同じような活動を広げられるのではないかと考えています」

「少しずつ時間をかけながら着実に」と話す星さんだが、これらの活動の根底にはこれまで展開してきた、(株)アクアリゾートの事業が大きく影響しているという。

「アクアリゾートの運営をしてきたからこそ、こういった活動はある種の使命感であると感じています。子どもたちが錦鯉と触れ合える環境を作り、広く子どもたちに浸透させていくことが、新潟県の地域産業の振興にもつながっていく」と語り、まだまだやらなければいけないことがあると、今後のさらなる取り組みへ意欲を見せていた。